

三番瀬評価委員会の開催状況について

平成18年9月27日
総合企画部企画調整課

第2回三番瀬評価委員会の開催結果概要

- 1 開催日時 平成18年7月28日(金)午後6時20分から8時55分
 - 2 場 所 フローラ西船 5階扇
 - 3 出席者 委員7名
 - 4 参加人数 27名
 - 5 結果概要
- (1) 第1回三番瀬評価委員会の結果と三番瀬再生会議からの検討指示事項について
- 事務局から、第1回三番瀬評価委員会の結果、また、さる5月25日開催の三番瀬再生会議において、当評価委員会に対し、県が実施する「三番瀬自然環境調査のあり方」及び「市川市塩浜護岸改修事業のモニタリング方法」について、必要な助言を行うよう、検討の指示が出されたことを説明した。
- (2) 三番瀬自然環境調査について
- 県から「三番瀬自然環境調査事業の考え方(案)」、「今後のモニタリング調査の提案」などについて説明した。
- また、望月委員からは、「今後の望ましい調査に向けて」、細川座長からは、「自然環境調査への意見の出し方」が、それぞれ提案された。
- (主な意見)
- ・調査には、センサスのような現況把握型と、再生のためにあらかじめ仮説を立てた上で必要な調査を行う検証型があるが、調査結果をどのようにシステムティックに活用していくかが重要である。
検証型の部分は、専門家を交えて過去のデータをしっかり解析すべきであり、事業計画と関連し、優先順位を付けて、戦略的な調査設計に見直すことが重要である。
 - ・第1次事業計画において、新たにどのような調査が必要かを見ていく必要

がある。県から提案のあった調査には、淡水導入や流入負荷の削減、後背湿地に関する調査は欠けている。モニタリング調査の項目が自然保護課分に偏っている。流入河川の流量や汚濁負荷量など、県が実施しているその他の調査項目も整理してほしい。

- ・ 現況把握型と原因判別型を組み合わせ実施していくこととなるが、よりよい工夫をして重点化、効率化を図る必要がある。特に岸側・浅い部分での調査内容を充実すべきである。
- ・ 干潟の調査は日進月歩していることから、データロガーによる水質の経時調査や微地形調査の実施など、時間変化や物理環境と生物の対応がわかるよう、調査をリニューアルしてほしい。
- ・ 評価委員会として自然環境調査の枠組みを整理した上で、変更すべき事項などを提案し、再生会議に上げて、県に対応を求めていくものである。
- ・ 水質調査では、定期的な観測より連続観測のほうが望ましい。

(会場からの意見)

- ・ 全体的に動的要素がないので、センサーとか砂の流れとか、再生のための戦略的な調査設計を提案してほしい。
- ・ 平成18年度自然環境調査を少し見直して海域区分1(猫実川河口域)の集中的な調査を行い、評価してほしい。

(3) 市川市塩浜護岸改修事業に係るモニタリング方法について

県から「塩浜護岸改修事業の取組」、「生物調査及び予想結果」などについて説明した。

また、細川座長からは、「順応的管理の基本(案)」が提案された。

(主な意見)

- ・ 緩傾斜の護岸構造によって波が弱まる結果、護岸前面に砂が堆積することも考えられるが、その辺はモニタリングをしっかりとやればよい。施工区間と同じ幅の調査を海側で計画していることは適当と考えられるが、三番瀬全体の波浪調査がないので、生物調査と併せて物理調査も実施することがベストである。
- ・ 施工後、1年で調査を終了するのは望ましくない。ある程度、長期的な変動も含めて見なければいけない。
- ・ 将来の護岸延長を考慮した場合、現在計画している施工区域における海側での調査のほかに、今後施工が予定される直立護岸沿いの調査も並行して実施し、周辺環境全体をモニタリングするとよい。
- ・ 調査結果を集中的に検討して、何を優先してやるのか、迅速なフィードバ

ックが必要である。

- ・ 順応的管理の取組において、どのようなチェックポイントがあって、フィードバックがかけられ、だれが判断して手直しをするのか整理する必要がある。護岸改修における新しい試みであり、評価委員会としても協力していく。護岸検討委員会での検討に注目しつつ、気づいた点など助言していく。
- ・ 順応的管理において、人が評価する景観をどう考えていくのか、景観の面からの専門的な意見も聞きたい。
- ・ 景観に関しては類似構造の習志野の護岸と比較していく工夫もある。緩傾斜護岸後も、背後に直立護岸がそのまま存在することによる地下水の陸と海とのつながりを考えに入れたほうがいい。

(会場からの意見)

- ・ 評価委員会にはモニタリングのほかにも、次年度へのアドバイスをお願いしたい。
- ・ 台風、江戸川放水などイベント時のフォローをお願いする。

(座長のまとめ)

概ね提言内容のイメージができつつあるが、「三番瀬自然環境調査」、「市川市塩浜護岸改修事業に係るモニタリング方法」に対する評価委員会の意見をまとめるため、小委員会を編成する。

小委員会は「三番瀬自然環境調査」については望月委員、「市川市塩浜護岸改修事業に係るモニタリング方法」については細川座長を中心に、評価委員の希望を募って編成する。

小委員会を開催する際は公開とし、第3回の評価委員会にたたき台を持ち寄り、11月までにまとめる。また、日程の調整は事務局で行う。

以 上

三番瀬評価委員会小委員会（塩浜護岸モニタリング関係）の開催状況

- 1 開催日時 平成18年9月12日（火）午後6時から8時45分
- 2 場 所 葛南地域整備センター
- 3 出席者 委員4名
- 4 参加人数 16名
- 5 議 題
 - （1）第2回三番瀬評価委員会の結果と小委員会の委員編成について
 - （2）「塩浜護岸改修事業に係るモニタリング手法」についての各委員からの意見
 - （3）塩浜護岸改修事業に係る順応的管理の取組とモニタリング手法について
 - （4）今後の進め方について

三番瀬評価委員会小委員会（自然環境調査関係）の開催状況

- 1 開催日時 平成18年9月13日（水）午後6時から8時30分
- 2 場 所 葛南地域整備センター
- 3 出席者 委員3名
- 4 参加人数 22名
- 5 議 題
 - （1）第2回三番瀬評価委員会の結果と小委員会の委員編成について
 - （2）「三番瀬自然環境調査のあり方」についての各委員からの意見
 - （3）三番瀬自然環境調査計画（案）の検討について
 - （4）今後の進め方について

三番瀬評価委員会小委員会（塩浜護岸モニタリング関係）
の委員編成

（：取りまとめ責任者 *敬称省略 順不同）

委員名	摘要
細川 恭史	(独)港湾空港技術研究所理事
岡安 章夫	東京海洋大学教授
倉阪 秀史	千葉大学助教授
宮脇 勝	千葉大学助教授
吉田 正人	江戸川大学教授

三番瀬評価委員会小委員会（自然環境調査関係）の委員編成

（：取りまとめ責任者 *敬称省略 順不同）

委員名	摘要
望月 賢二	元千葉県立中央博物館副館長
清野 聡子	東京大学大学院助手
能登谷正浩	東京海洋大学教授
野村 英明	東京大学海洋研究所技術補佐員
蓮尾 純子	(財)日本野鳥の会評議員
横山 勝英	首都大学東京准教授